



平成23年3月期 第2四半期決算説明資料

(平成22年4月～平成22年9月)

平成22年11月15日



証券コード: 1905

目次



平成23年3月期 第2四半期決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

- 当資料は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づくものであります。
- 経営環境の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は記載の予想値と大きく異なる結果となる可能性があります。



平成23年3月期 第2四半期決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

平成23年3月期 第2四半期決算の概要



▶ 受注競争が一層激しさを増したことによる減収減益

■ 連結売上高	81億70百万円	前年同期比 14億79百万円(15.3%)減 ✓ 建設事業において、土木工事が減少したことなどによる
■ 連結営業利益	5億15百万円	前年同期比 6億46百万円減 ✓ 売上高の減少に加え、価格競争の激化による低採算工事が増加したことなどによる
■ 連結経常利益	5億9百万円	前年同期比 6億45百万円減 ✓ 営業利益の減少などによる
■ 連結四半期純利益	3億25百万円	前年同期比 4億75百万円減 ✓ 営業利益の減少や投資有価証券評価損の計上などによる
■ 受注高	76億92百万円	前年同期比 52億36百万円(40.5%)減 ✓ 建設事業において、土木工事が減少したことなどによる
■ 受注残高	35億68百万円	前年同期比 46億63百万円(56.6%)減 ✓ 建設事業において、土木工事が減少したことなどによる

連結損益計算書の概要



- ▶ 主に土木工事が減少したことにより、減収
- ▶ 受注競争が一層激しさを増したことにより、減益

(単位:百万円)

	21/9(上期)		22/9(上期)		前年同期比	
	売上高	売上高比	売上高	売上高比		
売上高	9,649	-	8,170	-	1,479	15.3%
売上原価	8,480	87.9%	7,604	93.1%	876	10.3%
売上総利益	1,169	12.1%	566	6.9%	602	51.6%
販管費	1,038	10.7%	1,081	13.2%	+43	+4.2%
営業利益	130	1.4%	515	6.3%	646	-
経常利益	135	1.4%	509	6.2%	645	-
四半期純利益	149	1.6%	325	4.0%	475	-

連結貸借対照表の概要



- 流動資産：受取手形・完成工事未収入金等の売上債権や未成工事支出金等が増加するなかで、現金預金が減少
- 流動負債：未払法人税等が減少

(単位:百万円)

	22/3末	22/9末	前期末比	
流動資産	11,373	10,798	575	5.1%
固定資産	4,232	4,101	130	3.1%
資産合計	15,606	14,900	705	4.5%
流動負債	5,131	4,939	191	3.7%
固定負債	1,642	1,633	8	0.5%
(有利子負債)	(876)	(762)	(114)	(13.0%)
負債合計	6,773	6,573	200	3.0%
純資産合計	8,832	8,326	505	5.7%
(自己資本比率)	(54.0%)	(53.8%)	(0.2ポイント)	-

連結キャッシュ・フローの概要



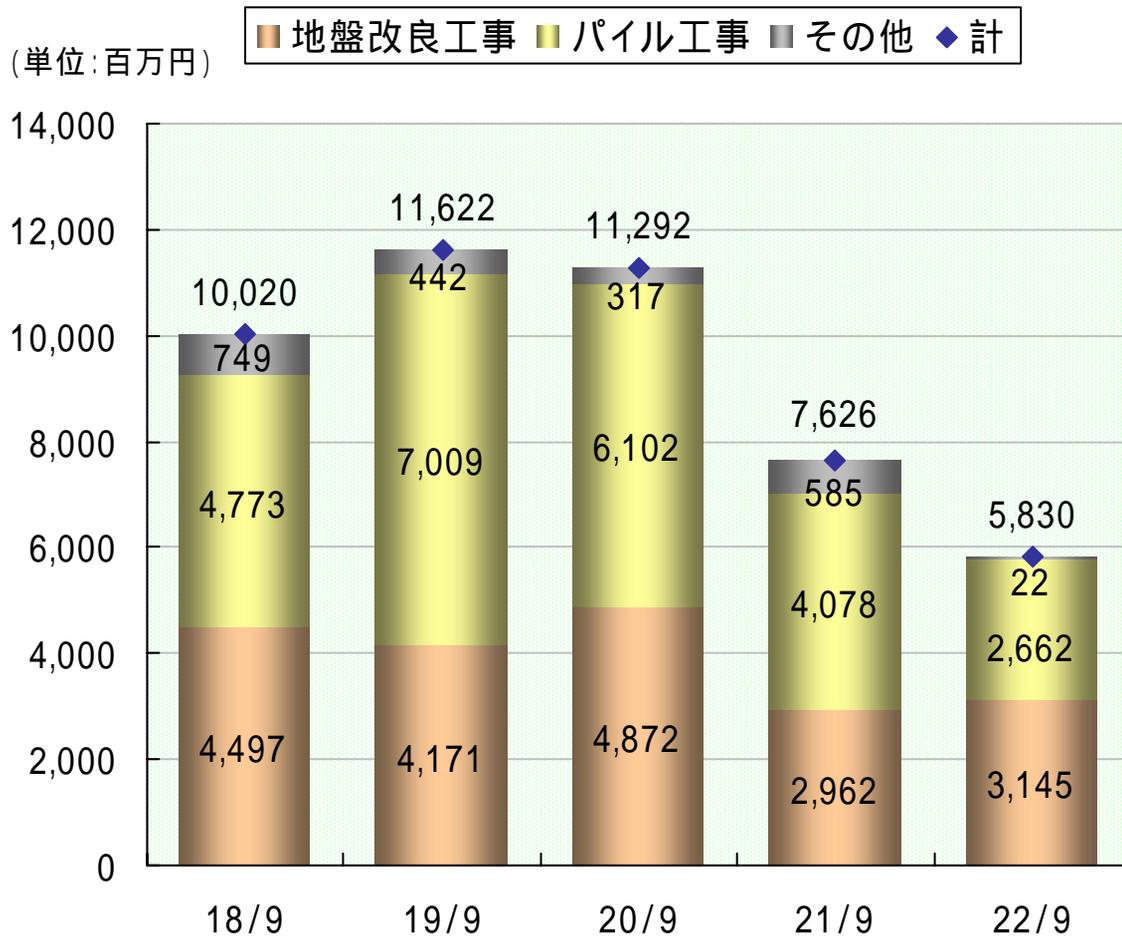
(単位:百万円)

	[参考] 21/9(上期)	22/9(上期)	当四半期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	1,349	341	✓ 減少: 未成工事支出金等の増加 1億21百万円 法人税等の支払額 1億96百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	48	40	✓ 増加: 有形固定資産の売却による収入 45百万円 ✓ 減少: 有形固定資産の取得による支出 53百万円 投資有価証券の取得による支出 21百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	118	349	✓ 減少: 長期借入金の返済による支出 1億19百万円 短期借入金の減少 95百万円 配当金の支払額 68百万円
現金及び現金同等物 の増減額	1,186	735	
現金及び現金同等物 の四半期末残高	5,060	5,009	

売上高の推移 (単体)



セグメントの状況 (単体)

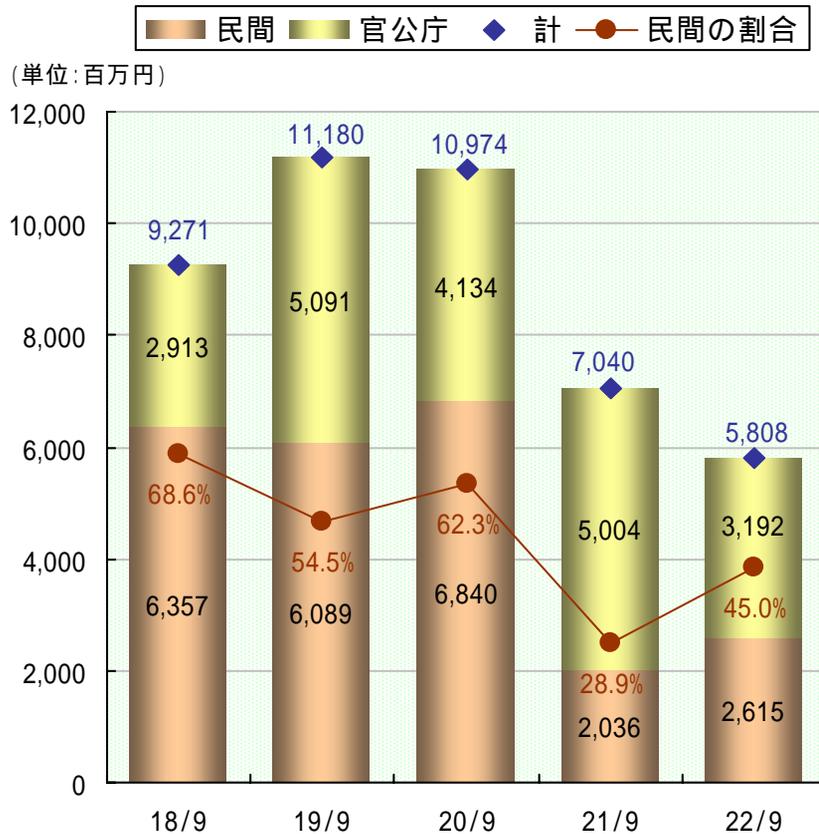


- パイル工事:
道路などの大型物件が減少したことにより減収
- 地盤改良工事:
福祉施設などの建築物件が増加したことにより増収

完成工事高の状況 (単体)

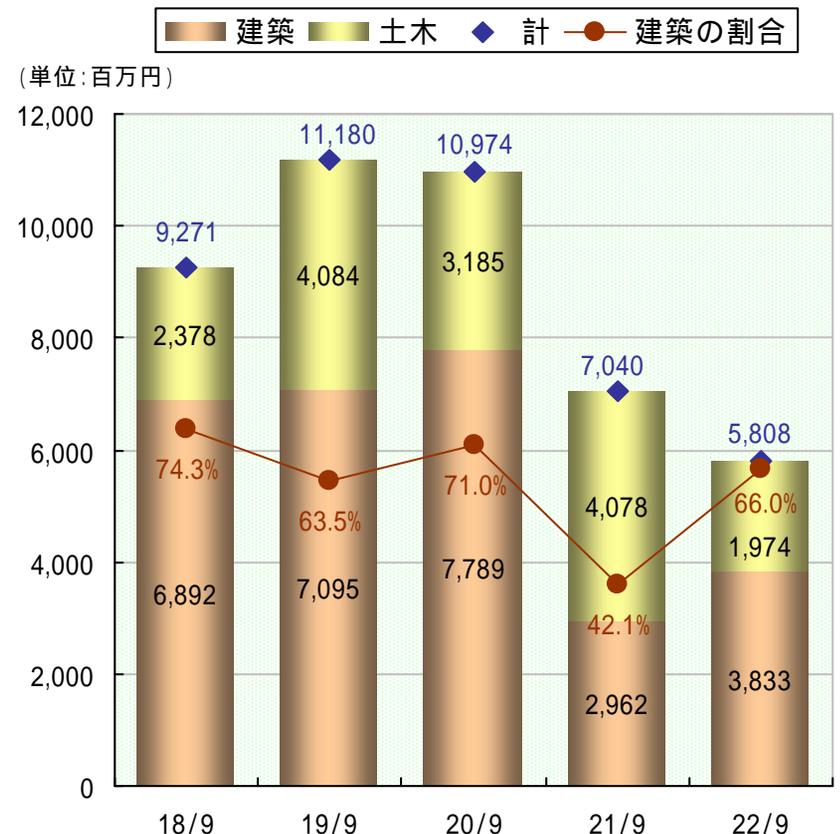


民間vs官公庁の推移 (単体)



- 民間は、福祉施設やマンションなど増加
- 官公庁は、道路など減少

建築vs土木の推移 (単体)



- 建築は、庁舎や福祉施設など増加
- 土木は、道路など減少

完成工事高の状況 (単体)



工法の構成比率 (単体)

	[参考] 21/9(上期)	22/9(上期)	当四半期の状況
テノコラム	28.6%	37.1%	前年同期比+7.1%増 ✓ 福祉施設などの建築物件が増加したことによる
ATTコラム	9.0%	14.8%	前年同期比+35.6%増 ✓ 学校・福祉施設などの建築物件が増加したことによる
ガンテツパイル	43.6%	21.9%	前年同期比 58.6%減 ✓ 道路関連の土木工事などが減少したことによる
NSエコパイル	1.1%	12.4%	前年同期比+844.0%増 ✓ 庁舎・店舗などの耐震建築物件が増加したことによる
その他	17.7%	13.8%	前年同期比 35.8%減
完成工事高合計	100.0%	100.0%	

注) 当期より、工法の集計方法を一部変更しております。



平成23年3月期 第2四半期決算の概要

平成23年3月期 業績見通し

平成23年3月期 連結業績見通し



▶受注環境はさらに厳しさを増すなかで、経費削減に全力で取り組むものの減収減益の見通し

■連結売上高	《予想》 185億00百万円	22/3期比 18億38百万円(9.0%)減 ✓ 建築需要の低迷を受けて受注が低調となることを見込まれることによる
■連結営業利益	《予想》 4億80百万円	22/3期比 8億82百万円減
■連結経常利益	《予想》 4億80百万円	22/3期比 8億84百万円減
■連結当期純利益	《予想》 3億25百万円	22/3期比 5億56百万円減

セグメントの見通し(連結)

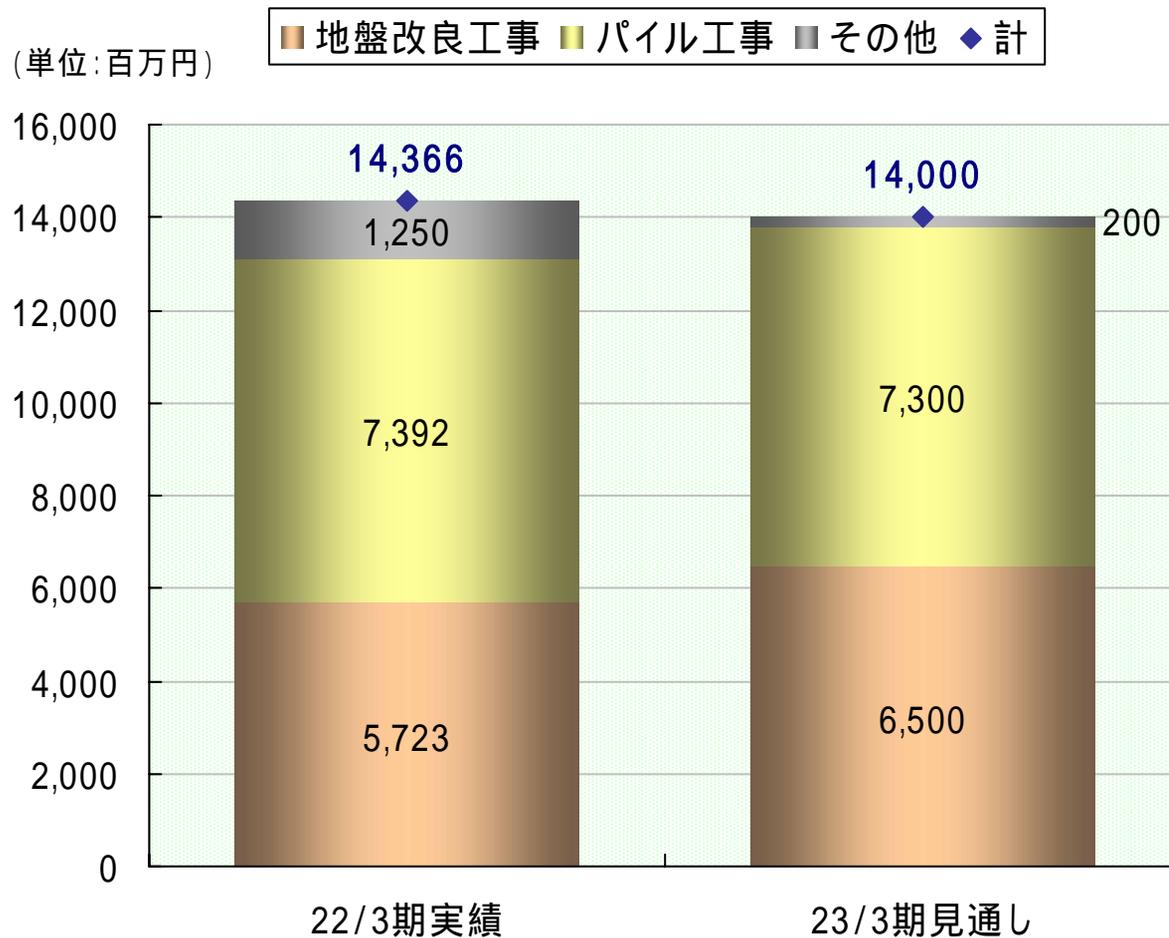


➤ 建設事業:
建設需要の低迷に加えて、
大型物件が一巡したための
減収

売上高の見通し (単体)



セグメントの見通し (単体)



➤ 受注環境が悪化している中、前年並みの確保を目指す。

投資計画等について



収益力の向上に資する投資の最適化を図る

(単体)

■設備投資額	《予想》 3億50百万円	22/3期比+2億38百万円(+213.3%)増 ✓ 主に施工機械の買い替えによる
■減価償却費	《予想》 3億50百万円	22/3期比 58百万円(14.3%)減 ✓ 主に施工機械などの償却による
■研究開発費	《予想》 60百万円	22/3期比+24百万円(+68.9%)増

弊社を取り巻く
経営環境は
大変に厳しい

- 公共投資の縮減
(財政難等)
- 民間建設投資も楽観しえない
(少子高齢成熟社会)
(世界経済の停滞)

弊社の強みを
最大限に活用

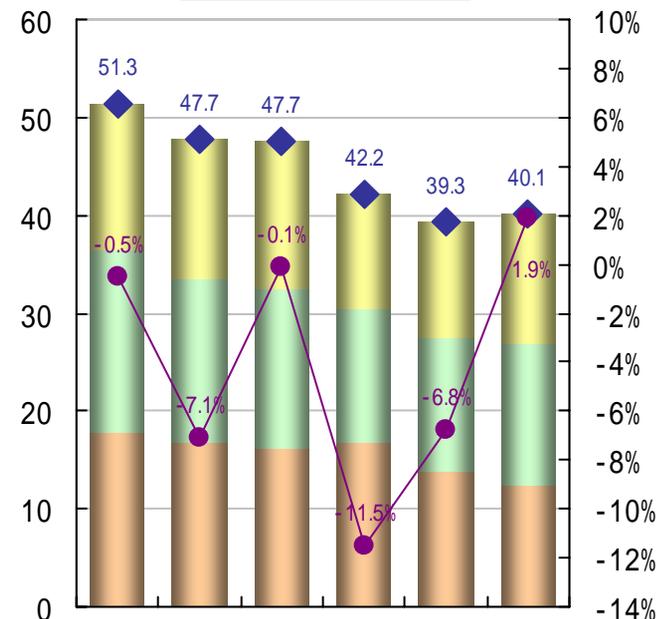
- 独自の高い技術力
- さまざまな環境問題への取組み

現在抱えている
問題点の把握と解決

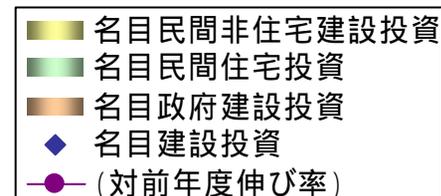
- 受注回復に向けた営業力の強化
- 更なるコスト削減への取組み

(単位:兆円)

建設投資の推移



H18年度
H19年度
H20年度(見込み)
H21年度(見込み)
H22年度(見通し)
H23年度(見通し)



出典:「建設経済レポート」No.55(平成22年10月)

経営理念：人間尊重・技術志向・積極一貫

私達は、「信頼されるテノックス」として、これからも土や地盤と素直に向き合いながら、積極的に研究・開発を進めていくとともに、安全・確実な施工管理体制のもと、信頼できる施工をご提供していくことをモットーに、お客様のご要望にお応えしてまいります

本社	〒107-8533 東京都港区赤坂六丁目13番7号
設立	昭和45年7月8日
資本金	17億1,090万円
代表者	代表取締役社長 青木 功
従業員数	単体 171名(平均年齢 42.4歳)
営業所	札幌、仙台、金沢、名古屋、大阪、 広島、福岡
出張所	秋田、米子
機材センター	船橋

地盤と社会基盤施設との調和を図る



ホームページ：<http://www.tenox.co.jp/>

お問い合わせ先：総務部 IR担当

電話：03-3582-1873

Email：kanbayasi-a@tenox.co.jp